

授業参観アンケート回答結果について

平成26年6月23日(月)から7月4日(金)の期間に実施された授業公開に対するアンケート調査にご協力いただきまして誠にありがとうございました。お蔭様で多数の回答が寄せられましたので、授業を参観した感想や意見について学内に向けて公開いたします。工学部教育企画委員会FD部会では、これらの感想や意見を参考に今後の授業公開のあり方やアンケートの調査方法について審議することにしておりますので、引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

【アンケート(b) の質問内容】

質問1 授業を参観して、ご自身の授業で改善しようと思ったことがあればお書きください。

質問2 授業参観の実施に対して感想や意見を自由にお書きください。

【質問1 に対する全回答】

(機械工学科)

- ・配布物に関して最初に一気に配るのではなく、15分ごとぐらいの間隔で小まめに配ることにより、寝ている学生が少ない形を取れるのかもしれないと思った。
- 図など描くのに時間の居る物はプリント配布の形にし、その分の時間をこれまでに習ってきたことと今習っている知識との関連を口頭で説明する時間に充てる。
- ・話し方をゆっくりとすること。
- ・可動式でない黒板では、黒板の内、最後尾から見えない範囲に書かないように意識する必要がある。
- ・キーワード的に必要な情報が板書されており、自身の講義でも参考にしたいと思う。また、同じ内容を話す場合でも口調によって講義の雰囲気異なり、話し方にもコツがあるのを強く感じた。
- ・授業中に学生が問題を解く時間を十分に確保すること。
- ・プロとして日々研鑽を重ね自信と愛情と広い心を持つことが一番であり、終わりは無いことを再認識しました。(私が参観した先生方の講義がどうこうということでは無いです。)
- ・板書が中心の授業の場合には、学生の集中力が続くように板書と説明の時間を明確に分けて、メリハリをつけた方が良いかと思いました。
- ・長い間指摘されていることですが、板書が多い授業だと後部席に座っている学生の集中力の無さが目立ちます。授業中にこまめに作業をさせて授業に注目させる、真面目な学生に不公平感を与えないようにするなど心掛けて、学生の関心を向上させていきたいと思います。

(電気電子システム工学科)

- ・板書とスライドの字の大きさを自分のものと比較し、予想以上小さく見えていることに気づきました。

・今回はあえて他学科の先生方の授業を参観してみました。別の分野の先生方の視点というものがよくわかって大変参考になりました。見えそうな素材が見つかったので自分の授業にも活かしたいと思います。

・授業参観は長年行っているイベントなので、さすがにここで書くネタは今回得られなかった。ただ、今回初めて情報系科目「プログラミング演習」を参観し、情報メディア端末室のクオリティの高さに驚いた。

(情報システム工学科)

・自分には1回の授業に沢山の内容を詰め込みすぎる傾向があるので、もう少し話の焦点を絞った講義にする必要があると感じました。

・授業中にスマートフォンをいじってる学生が多いので、注意する必要があると感じました。

・寝ている学生を放置してよいかどうか、考える必要があると思いました。

・マイクの音量が大きすぎる場合があるので、気を付けたいと思います。

・授業中や予習・復習を通して、学生が自ら学ぶ・課題に取り組めるような授業にする必要性を改めて感じた。

・授業をまじめに聞いてなくても単位が取れてしまうような授業にならないように工夫しようと思った。

・板書の文字が小さくならないように改めて気をつけることと、板書やプロジェクタ出力で下側が後ろの学生に見えづらいことに配慮すべきと思った。

(応用化学科)

・課題や試験の解説をもっと丁寧にするべきだと思った。

・その日実際に喋る内容をまず学生に伝えていた(黒川准教授)が、このようにすると何を学ばば良いかという目的がわかりやすくなると思うので、自分も行おうと思った。学生に対して、すぐに答えを言うのではなく、自分で考えさせるような進进行をされていた(黒川准教授)点が非常に参考になった。

・学生の集中力を維持できるよう、内容の改善(選択)を検討していきたい。

・渋川先生の講義を参観して、必要以上にいろいろと情報を与えたり、喋りすぎたりすると返って学生の興味を失わせるのではないかと感じた。要点を絞って、適切な表現で内容を伝えようと思った。

・丁寧な板書を心がけたい。

・最後尾まで声が通るように心がけたい。授業で学ぶことが社会ではどのようなシーンで活用されるかを具体的に話すと、学生の授業に取り組む意識を高めることができると感じた。

・部屋の後ろの方に座っている学生があまり講義に集中していないことを、改めて実感した。学生を講義に参加させたり、参加するように学生の意識を変えたりしていくよう努力することが必要だと思いました。

ホワイトボードへの板書が遠くから見ると、実際どのように見えているか、知ることができました。これを参考に、適切な文字の大きさ、分量などを考えて授業を行っていこ

うと思います。

- ・広い教室では、必要に応じてマイクを使う重要性も再確認いたしました。
- ・広い教室でも後ろの席に座る学生がちらほらいるので、できるだけ前に詰めて座らせるように心掛けたい。

(機能材料工学科)

- ・授業中に使う資料（電子媒体も含め）の工夫は大切であると思った。
 - ・自分の専門分野を意識せず、複数の幅広い分野の授業に参加した。板書の仕方、話し方、授業の進行方法など、参考になることが多数あり、たいへん有意義であった。
 - ・ppt を用いた講義では1枚のスライドの説明にかかる時間に十分留意する必要がある点を認識しました。
 - ・対象学科の学生になじみ深い例示を行うことで理解度の向上が見込まれることを認識しました。
 - ・ゆっくりわかりやすく話すことが改めて大切だと感じました。
- 後学生がノートをとると言うことを考えながら板書する必要性を感じました。

(建設工学科)

- ・ポストイットやカードを用いてグループワークをしており、学生同士の活発な意見交換に役立っていると感じました。
- ・先生が教室の後ろまで歩いていき、学生に発言を促していたことについて、前方に座っている学生と後方に座っている学生の参加意識に、差が少なくなると思われるので、参考にしたいと思います。
- ・配布物とプロジェクトに映すものについて、適切に選びたいと思いました。
- ・学生がほとんどメモを取っていなかったので、写真などを多用した授業をする場合は、要点くらいは記述しようと思った。
- ・聴講させて頂いた2講義のスライドの準備が十分になされているのを拝見し、反省いたしております。

(環境共生学科)

- ・パワーポイントで図等を示しながら、要点や計算をホワイトボードに書いていくスタイルの授業は、分かり易くて良いように感じた。どこを板書するかや、パワーポイントとの割合は試行錯誤が必要そうだが、自分の授業にも取り入れて行く事を考えたい。
- ・自主的に調べるようにするために、配布する資料に重要な情報を全て明示するばかりではなく、あえて記載しないような工夫も取り入れたい。
- ・板書や資料を使った説明の際、教科書のページ数をこまめに提示することで、授業中だけでは理解が不十分であったところの復習を効率的に進められるように工夫したい。
- ・たとえ基礎科目であっても教科書の内容を分かりやすく教えるだけでなく、その式や図の背景にある科学的事象などにも触れ、広く工学的な興味や知識を引き出せるように努力することも重要であると感じた。
- ・板書の仕方や見やすさなど、これも学生の集中力に関わると考えられるため、配付資

料にまとめる内容、板書する内容など、テクニク的なことも意識していく必要性を感じた。また、常に部屋の最後列を意識し、文字や声の大きさなども配慮していきたい。

- ・一方的な講義ではなく、出席や質疑応答、板書中でも様々な話題を提供し、学生とのコミュニケーションの取り方を検討していくことの重要性も感じた。
- ・自分の講義も含めて、多くの講義で一部の学生が無関心・無意欲のまま、ただそこに座っているという光景が目につきました。そうした教室内の温度差を埋めるため、特に非積極的な学生に対してよりわかりやすい形で質問を投げかけたり、周囲と議論させるなど、自発的に講義に参加する姿勢を取りやすくするきっかけをうまく作っていく必要があると強く感じました。

【質問2 に対する全回答】

(機械工学科)

- ・参加する講義教室サイズによって、講義のスタイルが大きく変化するように感じた。人数のみで単純に決めるのではなく、講義スタイルに合わせて選ぶのもいいのかもしれない。
- ・授業を参観することが有意義であるとお考えの先生方もいらっしゃると思いますので授業参観の実施は継続すべきだと考えますが、全教員に2科目以上の授業を参観するよう要請するのではなく、参加するかどうかは各教員の判断に任せる方がよろしいかと存じます。
- ・授業参観から出るタイミングがつかみにくい。
- ・他の授業を参観すると参考になることも多いと思う。
- ・こういう機会があると他の方の講義を堂々と拝聴することができるということもありますし、アンケートを学科ごとに公開することにより色々な方々のもの見方などを感じることができるので、そういう意味では面白い企画だと思います。我々のような職種の間が面白いと感じることは広い意味での資質向上に繋がるので、そういう観点で捉えればこれは立派なFD活動だと思います。ただ実際はもっと狭い意味で捉えている活動だろうと思っています。
- ・教員同士はお互いの講義内容に疎い面があるので、授業参観は継続していくべきかと思っています。なお、教員同士だと先入観があったり遠慮などがあつたりするかと思いますので、新たな第三者から意見を伺うということで職員の方々も参加して、教員と職員で交互に授業参観を行ってもよいのではないのでしょうか。

(電気電子システム工学科)

- ・他の先生方の講義が聴ける良い機会なので、今後も続けて欲しい。
- ・直接関係ないのですが、51番教室の後ろの床に古いスクリーン?が置いたままになっているのは撤去すべきです。非常時の避難の妨げになる恐れが高いと思います。
- ・授業参観というより講義全体に対する意見だが、近年、授業中ずっと携帯やスマホをいじっている学生が多く見受けられる。おそらく授業とは関係の無いチャットやメールにうつつを抜かしているのだと思うが、あまりにも非道いので、今回規制をかけた方が

良いように思った。

(情報システム工学科)

記載なし

(応用化学科)

- ・学生が後でノートを見返したときにわかりやすくなるように、どのように板書を進めるか、レイアウトや色など、あらかじめ考えてから臨むべきであると思いました。
- ・異なる分野、形式の講義を見学することは非常に参考になります。
- ・非常に参考になる取り組みで、また講義している教員にとっても方針や方法が間違っていないかチェックできるよい機会になると思われるが、2年に1回くらいで十分ではないか。
- ・実際に他の先生の講義を聴き、見ることは、毎回参考になります。
- ・他の先生の良い講義を聴けてためになりました。

(機能材料工学科)

- ・専門分野が異なる授業を参観しても参考になることは多い。
- ・参観して頂くのは歓迎です。建設的なコメントが頂けたらと思います。
- ・他学科の授業を参観して新鮮な驚きがあったので、他学科への授業参観を積極的に推奨した方がよいと感じた。
- ・非常に参考になる取り組みで、また講義している教員にとっても方針や方法が間違っていないかチェックできるよい機会になると思われるが、2年に1回くらいで十分ではないか。
- ・何年も参加し続けているうちに、参観したい授業が少なくなっていくと推測されます。年々参加人数が減っていくのは必然な気がします。これまでの方法を見直す時期かもしれません。
- ・教員間の相互授業参観のみが長年続いてきたので、講義術の専門家の講演を一度聞いてみたいと思います。
- ・他の先生の講義を聴くことは非常にためになります。

(建設工学科)

- ・他の先生の授業の方法を見られることで、自分の授業について工夫するヒントが得られ、大変貴重な機会だと思います。
- ・出張が入っている場合、2回の授業参観を2週間の間に行なうのは難しい。1回でよいのではないか。
- ・後ろから見るのは、出席の取り方や演習・課題のタイミングなどを考える上で有意義でありました。

(環境共生学科)

- ・今回、参観した先生方は授業のスタイルが確立しており、説明すべき内容を過不足な

く説明されていたので、気になるところを見つけるところを探すのがとても難しかった。一方、ちょっとした工夫で学生の積極的な取り組みにつながるヒントを見つけることができたので、是非とも自分に授業にも反映させたい。

・今後も是非継続して頂きたいと思います。

・普段他の先生方の講義を目にする機会はほとんどないので、実施自体はとても有意義で今後も継続していただきたいと思います。